

<経緯>

令和5年度小笠原世界遺産地域科学委員会（母島部会）において、「新たな外来生物の侵入防止のためのモニタリングの必要性について」が指摘された。

<調査内容>

令和6年度10月～11月に、港湾、資材置き場におけるモニタリングの試行（外来アリを中心に）を実施

- ・港湾における外来生物の確認調査
目視調査、ベイト調査（スナックベイト）、粘着トラップ
- ・資材置き場において外来生物の確認調査
目視調査、ベイト調査（スナックベイト、ジェルベイト）



<調査結果概要>

複数の港湾において注意すべき外来生物を確認

①東京港：ツヤオオズアリ（IUCN WORST100）（再）、セアカゴケグモ（特定外来生物）（初）ほか
↑
小笠原から侵入の可能性

●初期防除も実施



- ②父島二見港：ナンヨウテンコクオオズアリ、ツヤオオズアリほか
- ③母島沖港：ナンヨウテンコクオオズアリ、ミナミヒメハリアリ（初）ほか
- ④母島資材置き場：アシジロヒラフシアリ（再）、エリマキコウガイビルほか

令和6年度：外来生物アリ類モニタリング調査結果（東京2港湾）



本土の東京2港の小笠原へ往来するコンテナ等周辺でベイト誘引、目視調査を実施した。

芝浦ふ頭：本土の普通種が確認された。

月島ふ頭：ツヤオオズアリ、ヒゲナガアメイロアリといった小笠原と共通する南方系の種が確認された。アリ以外では、特定外来生物のセアカゴケグモが複数個体確認された。

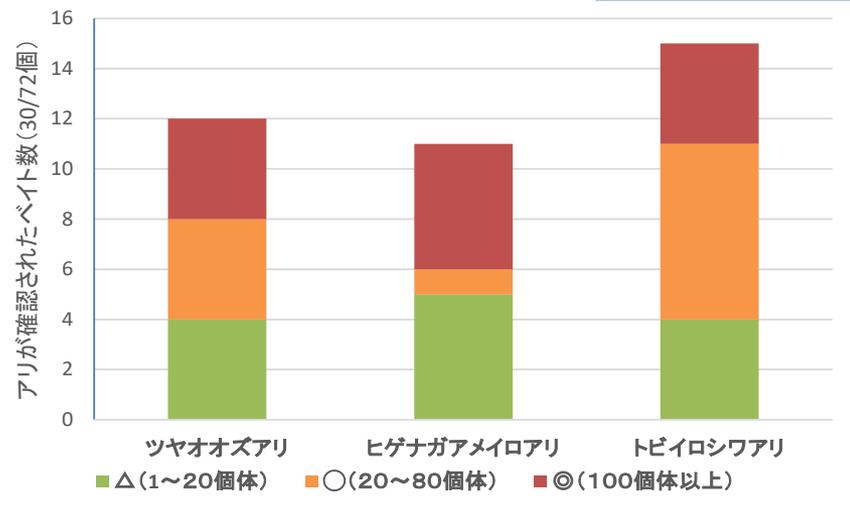


一部アリ類は小笠原－本土間の生物の随伴移動が示唆された。



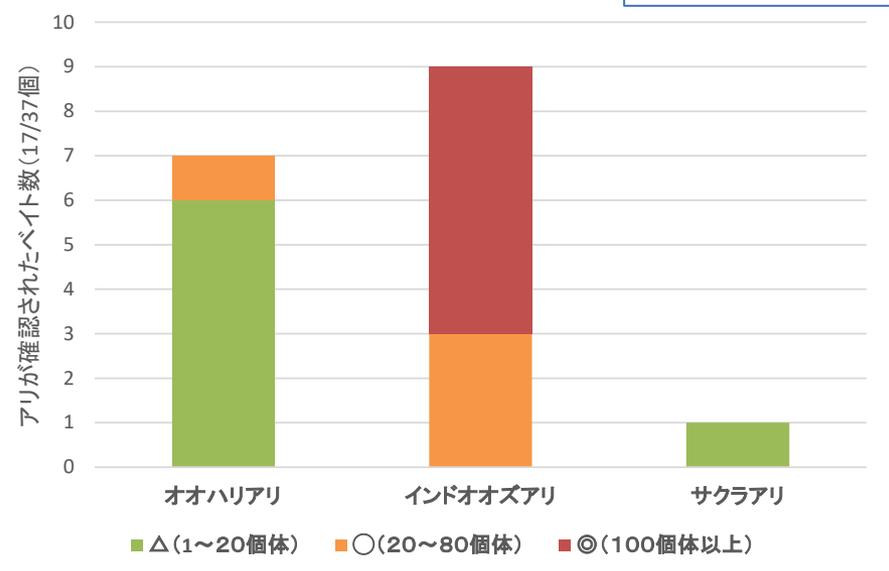
月島ふ頭アリ類確認状況(ベイト)

その他目視確認種・・・
ルリアリ
ムネボソアリ
ケブカアメイロアリ



芝浦ふ頭アリ類確認状況(ベイト)

その他目視確認種・・・
ルリアリ



令和6年度：外来生物アリ類モニタリング調査結果（小笠原2港）



父島・母島の港湾一帯でベイト誘引、目視および粘着トラップ調査を実施した。

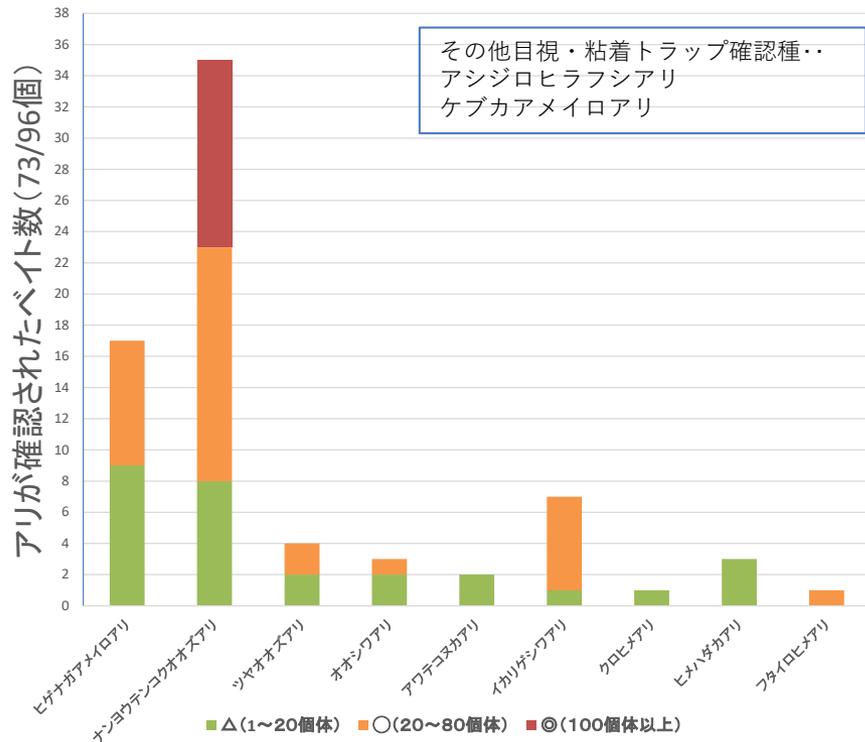
父島二見港：ナンヨウテンコクオオズアリなどの外来種を中心とした既知種を確認。

母島沖港：ベイト誘引では外来種が優先する既知種が確認された。目視調査では、**ミナミヒメハリアリ**※を初確認。

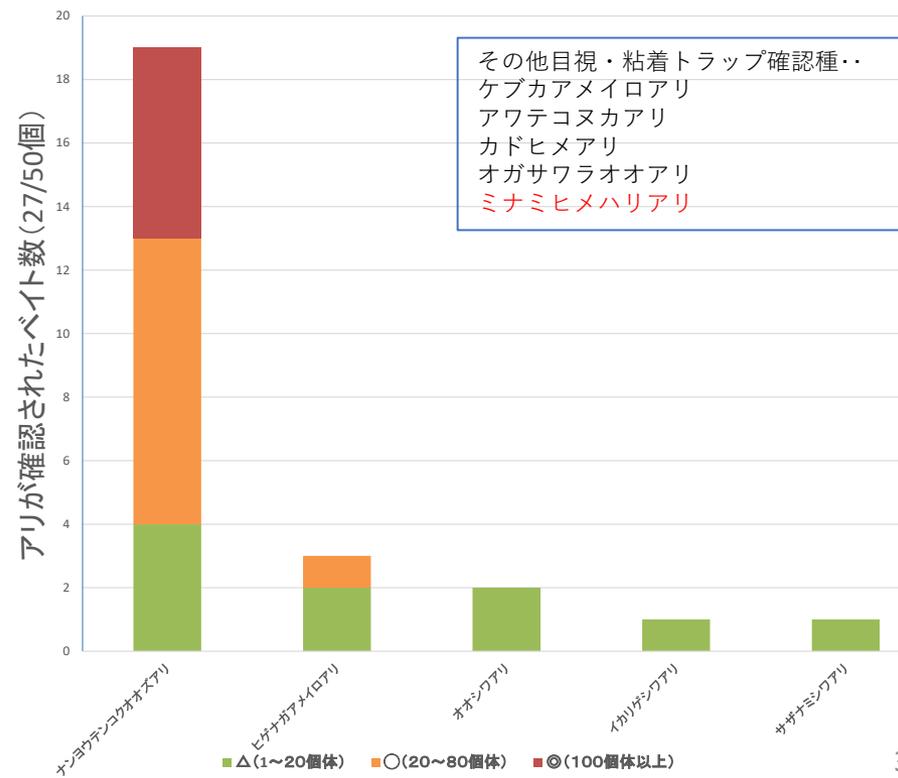
※父島は2023年に初確認



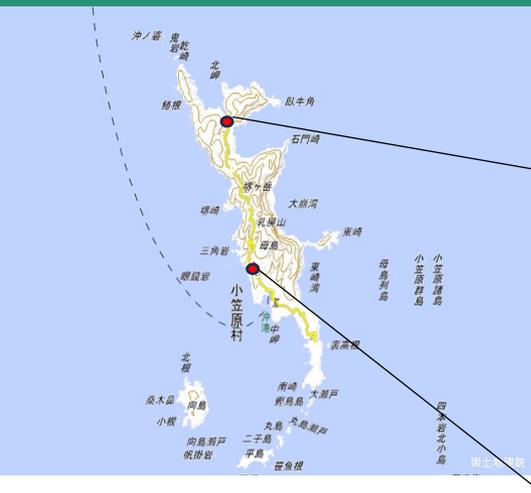
父島二見港アリ類確認状況(ベイト)



母島沖港アリ類確認状況(ベイト)



令和6年度：外来生物モニタリング調査結果（母島2ヤード）



母島本島のヤードにてベイト誘引、および目視調査を実施した。

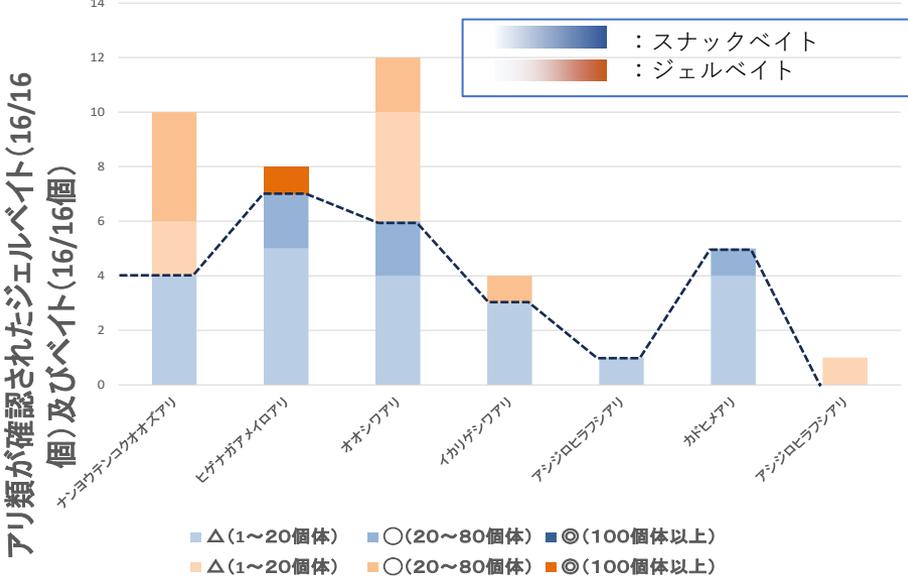
衣館：ナンヨウテンコクオオズアリなど外来既知種のほか、ごく少数の**アシジロヒラフシアリ**が確認された。アリ以外ではエリマキコウガイビルが2個体確認された。

船見台：ナンヨウテンコクオオズアリやヒゲナガアメイロアリを中心とした外来既知種が多く確認され、アリ以外の特筆すべき外来種は確認されなかった。



アシジロヒラフシアリは6月に母島で初確認されてから防除が実施され、生息密度の減少が確認された。一方、本種は港灣で確認されていない。

母島衣館アリ類確認状況（ベイト及びジェルベイト）



母島船見台アリ類確認状況（ベイト及びジェルベイト）

